

甲州市

遺跡調査現地説明会
平成28年3月5日(土) 10:00~

ケカチ遺跡F地区

所在地 甲州市塩山下於曾・熊野地内
調査原因 市道下塩後22号線建設
主催 甲州市教育委員会
協力・調査担当 昭和測量(株)文化財調査課

調査の成果

F地区:平安時代の竪穴建物26軒、土坑など

ケカチ遺跡F地区では平安時代に営まれていたと考えられる集落が見つかりました。

調査区全体にわたって竪穴建物が検出され、調査区の東側では複数の竪穴建物跡が重なり合って確認されています。

竪穴建物の形状は方形で、大きさは一辺が約3mの小形のもの、約4m程のもの、約8mもある大形のものなど多様です。

調査区南側に位置するSI619は、一辺が約8mあり、4基の柱穴が見つっています。また、硯や鉄製の分銅など特徴的な遺物が出土しました。

この地区の竪穴建物から出土した遺物の多くは、土師器の坏、カメ、羽ガマなどの日用品として使われていたと考えられる土器を中心としています。

その他には、硯、鉄製分銅をはじめとして、土製のおもり、鉄製のカマ、鉄製の矢じり、須恵器や灰釉陶器、墨書土器なども見つっています。

ケカチ遺跡F地区では、硯、墨書土器、分銅などが見つっていることから、文字を扱い記録を取り、重さをはかっていた人物がいた可能性を示唆しています。この地域の中心的な集落であったのでしょう。



ケカチ遺跡F地区全景
空撮写真



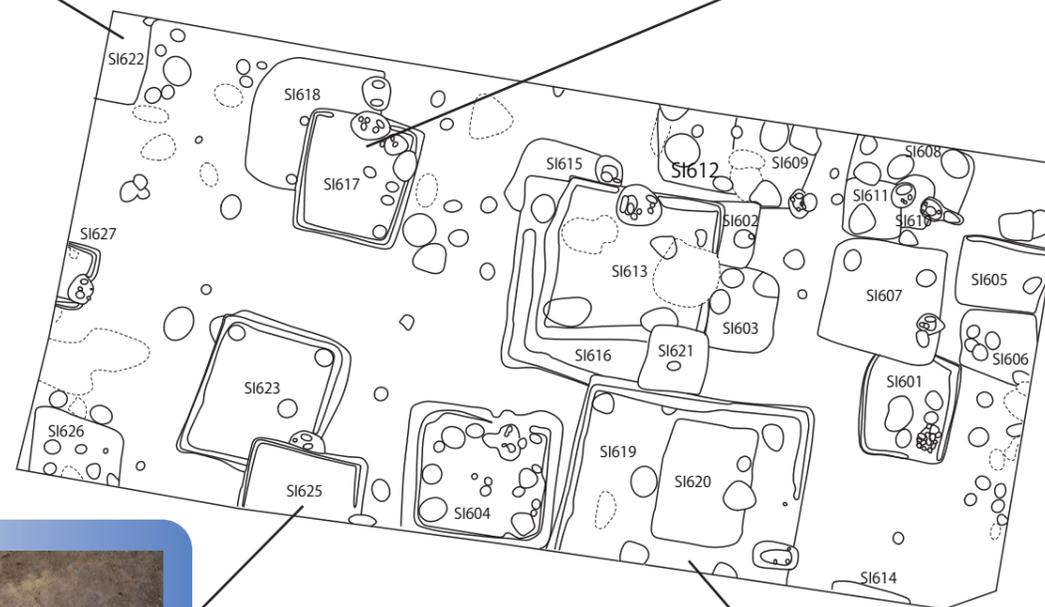
竪穴建物 土製のおもり出土状況



竪穴建物 カマド検出状況



竪穴建物 土器出土状況



ケカチ遺跡F地区全体図
S=1/250



竪穴建物 墨書土器出土状況



竪穴建物 硯出土状況



竪穴建物 分銅出土状況



竪穴建物 矢じり出土状況